

昔の勝浦の繁栄

勝浦は江戸時代後期から昭和初期まで、外房の江戸と言われるほど栄えていた。



昭和30年頃の勝浦の街並みである。蔵づくりの立派な商家や旅館が建ち並んでいる。この街並みは明治時代からのもので外房一と言われていた。



昭和初期の出水の山車の写真で、子ども達が祭りの衣装を着て化粧をしている。後ろには芸者のような女性が見えるが、当時は出水から沢倉の岩切に50軒ほど飲食店が建ち並び劇場や大きな旅館などもあり、芸者（酌婦も含め）が約100人ほどいたという。このように当時の勝浦は大変賑わっていたのである。



大正時代の歌詞カードで電話二百十四番とある。当時の勝浦は電話が普及していた。右上は昔のパンフレットにあった勝浦を中心に書かれた地図である。鴨川まで鉄道が開通しているので昭和初期のものである。（資料提供：牧野和代、牧野善子）



50年ほど前の魚市場の写真である。新しい神輿（みこし）があるので、御遷宮の際に撮影されたのであろう。



昔の船渡（ふなわたし）の写真である。村廻りを終え神輿は海中で担いだ後、沖で待つ船に渡された。

（写真提供：小林伸江 編集：文責 勝浦の住人 中村裕明）